



国立大学法人 千葉大学  
National University Corporation  
Chiba University

ニュースリリース

平成24年 1月 18日  
千 葉 大 学

## 第1回「減災・サステイナブル工学」シンポジウム

—大震災から学ぶ首都圏の安全・安心社会システム—

千葉大学では東日本大震災以来、復旧・復興に向け多くの活動を精力的に行って参りました。本シンポジウムでは、将来に向けた更なる活動の一步として、近い将来にも予想される自然の脅威による災害を最小限に減じるため、特に工学的見地から課題整理等を行い、これまで培ってきた最高の科学技術を以って産学官一体による減災・都市生活機能維持を実践可能とする「減災・サステイナブル工学」の確立に向け、情報交換、討論致します。

- 1 日 時 平成24年1月26日（木）  
9：30～17：50（交流会18：00～）
- 2 場 所 千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館 大ホール

[参考資料]

- 1) 第1回「減災・サステイナブル工学」シンポジウム プログラム
- 2) 第1回「減災・サステイナブル工学」シンポジウム ポスター

本件に関するお問い合わせ先  
減災・サステイナブル工学シンポジウム  
実行委員会  
千葉大学大学院工学研究科 浅沼 博  
Tel：043-290-3201 Fax：043-290-3039  
E-mail：asanuma@faculty.chiba-u.jp

## 第 1 回「減災・サステイナブル工学」シンポジウム

—大震災から学ぶ首都圏の安全・安心社会システム—

平成 24 年 1 月 26 日 (木)

9 : 30 - 17 : 50 (交流会 18 : 00 -)

千葉大学けやき会館大ホール

主催 : 減災・サステイナブル工学シンポジウム実行委員会

### 開催趣旨

千葉大学では東日本大震災以来、復旧・復興に向け多くの活動を精力的に行って参りましたが、本シンポジウムでは、近い将来にも予想される自然の脅威による災害を最小限に減じるため、特に工学的見地から課題整理等を行い、これまで培ってきた最高の科学技術を以って産学官一体による減災・都市生活機能維持を实践可能とする「減災・サステイナブル工学」の確立に向け、情報交換、討論することを主な目的とします。

その開催経緯は、大震災により直接的にあるいは多くの同胞が被災した千葉大学と弘前大学の有志による「減災・サステイナブル工学研究会」の設置・活動と、それが本学工学研究科長裁量経費によりオフィシャルに加速されたことです。幸い本学では、総合大学である強み、豊富な人材・リソース、企業との緊密な連携、内外の多数機関との強い絆を生かすことにより、今後の益々の発展的活動が期待できます。

私達は、大震災という負の遺産に屈することなく、それをばねとし、日本の科学技術を短期から長期にわたる様々なスパンで協力的に磨き直すこと、新たな総合工学「減災・サステイナブル工学」を構築し、それを安全・安心の技術基盤とし多くの重要な領域と融合することで強靱かつ優美な国家を再構築すること、その成果を以って、温かい支援や復興へのエールを頂いた世界の国々に減災産業立国として貢献することが、今後の使命であり活路でもあります。

上記研究会の究極のゴールは、減災のための産学官連携による実践的ものづくりとフィールドワークが可能な「減災・サステイナブル研究機構」を、ディザスターフロントとでも言うべき千葉県内に設立することです。本シンポジウムでは、ゴールに向けての約 10 の研究テーマの中から、幾つかの先行例を紹介することにより、より多くの皆様に賛同頂き、御指導、御協力頂けることを強く期待します。

## 講演会プログラム

司会：前野一夫（千葉大学 評議員）、浅沼 博（工学研究科 教授）

### 1. 開会（9：30－9：50）

趣旨説明：浅沼 博（実行委員会 代表・工学研究科 教授）

挨拶：齋藤 康 千葉大学 学長

来賓挨拶：文部科学省（予定）

### 2. 講演会

#### 1) 大震災から学ぶ首都圏の安全・安心社会システム（9：50－12：00）

特別講演「東日本大震災と今後想定される大地震」

岡田義光（独）防災科学技術研究所 理事長（40分）

基調講演1「都市型大規模災害時を想定した超高度減災システムについて」

野波健蔵（千葉大学 副学長・工学研究科 教授）（30分）

基調講演2「減災・サステイナブル工学に関する研究推進」

古屋泰文（弘前大学 教授）、浅沼 博（工学研究科 教授）（20分）

（「インターネット遠隔授業・減災討議モデル紹介」上野晴樹名誉教授（情報研究機構）を含む）

基調講演3「東日本大震災における千葉県内災害、復旧課題と危機管理体制の現状」

初芝泰雄 千葉市危機管理課 課長（20分）

伊藤亮一 千葉県防災危機管理課 副課長（20分）

（昼食休憩 12：00－13：00）

#### 2) 減災ロボット開発への産学官連携（13：00－14：30）

講演1「安全安心社会に資するクラウドコンピューティング」

蛸子准吏（(株)富士通総研）

講演2「大災害時の無線ネットワーク」

吉川憲昭（(株)サイバー創研・日立情報通信エンジニアリング（株）・千葉大学）

講演3「都市型災害と先端ロボティクス」（予定）

#### 3) 減災分野における海外の先進的取り組み（14：30－15：10）

特別講演「Deployable Disaster Devices (D3)（ハワイ大学における減災・サステイナブル技術研究）」（英語による講演）

Prof. Mehrdad N. Ghasemi Nejhadi (Director of Hawaii Nanotechnology Laboratory,

Chair of Mechanical Engineering, University of Hawaii at Manoa)

(休憩 15:10-15:20)

4) 減災・サステイナブル工学研究会の活動 (15:20-16:40)

講演1 「減災・サステイナブル工学研究会の活動紹介」 (30分)

浅沼 博 教授、丸山喜久 准教授、田中 学 准教授、久保光徳 教授 (工学研究科)

講演2 (基調講演) 「311複合大災害とGFRP - FRP材料の発展と日本列島強靱化への役割-」 (30分)

石田 彪 (FRPサービス (株))

講演3 (基調講演) 「減災・救災ロボット開発へのセンサ・アクチュエータ」 (20分)

古屋泰文 (弘前大学 教授)

3. パネル討論 (16:40-17:40)

テーマ 「産学官共同研究推進 “大震災から学ぶ首都圏の安全・安心社会システム”」

4. 総括と今後の活動 (17:40-17:50)

浅沼 博 (工学研究科 教授)

5. 交流会 (18:00-19:30)

レストラン コルザ



## 第1回「減災・サステイナブル工学」シンポジウム

—大震災から学ぶ首都圏の安全・安心社会システム—

日時：平成24年1月26日（木）9:30-17:50（交流会 18:00-）

会場：千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館 大ホール

主催：減災・サステイナブル工学シンポジウム実行委員会

近い将来にも予想される自然の脅威による災害を最小限に減じるため、特に工学的見地から課題整理等を行い、これまで培ってきた最高の科学技術を以って産学官一体による減災・都市生活機能維持を实践可能とする「減災・サステイナブル工学」の確立に向け、情報交換、討論します。

### 講演会

**開会**（9:30-）趣旨説明：浅沼 博（実行委員会 代表）

挨拶：齋藤 康 千葉大学 学長

来賓挨拶：文部科学省（予定）

### 講演会

1) 大震災から学ぶ首都圏の安全・安心社会システム（9:50-）

特別講演「東日本大震災と今後想定される大地震」

岡田義光（独）防災科学技術研究所 理事長

基調講演1「都市型大規模災害時を想定した超高度減災システムについて」

野波健蔵（千葉大学 副学長・工学研究科 教授）

基調講演2「減災・サステイナブル工学に関する研究推進」

古屋泰文（弘前大学 教授）、浅沼 博（工学研究科 教授）

基調講演3「東日本大震災における千葉県内災害、復旧課題と危機管理体制の現状」

初芝泰雄 千葉市危機管理課 課長、伊藤亮一 千葉県防災危機管理課 副課長

2) 減災ロボット開発への産学官連携（13:00-）「安全安心社会に資するクラウドコンピューティング」「大災害時の無線ネットワーク」「都市型災害と先端ロボティクス」

3) 減災分野における海外の先進的取り組み（14:30-）

特別講演「Deployable Disaster Devices (D3)（ハワイ大学における減災・サステイナブル技術研究）」Prof. Mehrdad N. Ghasemi Nejjhad (University of Hawaii at Manoa)

4) 減災・サステイナブル工学研究会の活動（15:20-）「減災・サステイナブル工学研究会の活動紹介」「311 複合大災害とGFRP -FRP材料の発展と日本列島強靱化への役割-」

「減災・救災ロボット開発へのセンサ・アクチュエータ」

「減災・救災ロボット開発へのセンサ・アクチュエータ」

### パネル討論

（お問合せ：浅沼 博、電子メール [asanuma@faculty.chiba-u.jp](mailto:asanuma@faculty.chiba-u.jp)、電話 043-290-3201）